

令和元年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立豊新小学校

令和2年3月

大阪市立豊新小学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校教育目標

◇豊かな心をもち、めあてをもって、意欲的に学ぶ子どもを育てる

- ・たくましい身体になる子ども
- ・ゆたかな心をもつ子ども
- ・よく考える子ども

2 学校運営の中期目標

現状と課題

児童は素直で明るく、元気よくあいさつのできる児童が多い。また、ここ数年、大きな問題行動もなく、安定した学校生活が送れている。学習規律も多くの児童が守れており、学習にも真面目に取り組み、特に、体験的な学習活動を好んでいる。さらに、学校行事、委員会活動やクラブ活動にも積極的に取り組んでいる。たて割り班活動では、高学年児童は低学年児童を優しい心を持って接し、低学年児童は高学年児童に対して尊敬の念を持って親しんでいる。地域や保護者も学校の教育活動に好意的で、多大なる支援・協力を得ることができている。

しかしながら、年々、学力および体力の向上は見られるが、全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査の結果においては、平均正答率をわずかながら下回っている。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査においても、男女とも握力を除いては全国平均を下回っている。

そこで、この3年間の「言語活動の充実」を目指した研究をベースとし、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指し、日々の反復学習や体験的な学習、ICTを効果的に活用した協働的な学習を多く取り入れるなど、教科指導法のさらなる工夫、また、平成32年度の新学習指導要領の完全実施を見据え、「主体的・対話的で深い学び」について研究を深め、教育実践を進めていく必要がある。さらに、外国語活動については、本市に先駆けて中学年で実施してきた強みを生かし、学習内容の深化充実ならびにモジュール学習の確実な定着、低学年への広がりを目指していきたい。

体力の向上に関しては、豊富な運動量を確保した体育科授業の推進、運動を楽しく取り組むきっかけ作りとなる、なわとび週間やかけ足週間、スポーツ集会などの学校全体としての取組、みんな遊びなどの学級での取組など、児童が生涯にわたって進んで運動をする意識の向上を図っていきたい。

また、自己肯定感や自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる優しい心を育める取組の充実が必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を、毎年、90%以上にする。
- 平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、毎年、前年度より減少させる。
- 平成 32 年度末の校内調査において、不登校になる児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。

学校の目標

- 自他ともに認め合い、思いやりのある子どもを育成するとともに、心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）を年に 1 回、計画的に実施する。さらに多様な体験活動（社会見学）を 3～6 年生で実施する。
- 平成 32 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。
- 平成 32 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成 28 年度より 9 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、平成 28 年度よりそれぞれ 10 ポイント、10 ポイント、12 ポイント向上させる。

学校の目標

- グローバル化の進む国際社会において生き抜く力を備えた児童を育むため、ICTを活用した教育の推進、外国語活動の深化充実を図り、平成 32 年度の校内調査における「ICTを活用した学習はわかりやすい」、「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに 90%以上にする。
- 授業力の向上を目指し、授業研究を伴う校内研修の充実を図り、平成 32 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、毎年、90%以上にする。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。
- 平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。
- 平成 31 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。
- 平成 31 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。

学校の年度目標

- 平成 31 年度の校内調査における「ICTを活用した学習はわかりやすい」、「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、ともに 85%以上にする。
- 平成 31 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。
- 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上させる。

4 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

□施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現

- ・学期に一度いじめアンケートを実施し、一人ひとりから聞き取りをしてきた結果、認知した件については、ほぼ解消されている。
- ・不登校児童への対応については、学校だけでは限界がある。諸機関とさらに強く連携し、様々な立場から働きかけをしていく。

□施策2 道徳心・社会性の育成

- ・情報モラル教育については今後、企業等の教育事業を活用し、自分や他者の価値を尊重する心を育成する。芸術鑑賞行事や多様な体験活動等、満足感や達成感を味わえる取組を継続する。
- ・道徳が教科化された。自己肯定感をさらに高められるよう、様々な教材・観点から指導していく必要がある。

□施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援

- ・東淀川図書館からの貸出、図書ボランティアによる朝の読み聞かせや休み時間の図書館開放、図書委員による図書館開放など、様々な形で児童が本に親しむ機会を設ける。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

□施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組

- ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団では前年度より向上させることができない学年もあった。
- ・子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組として、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習などを引き続き工夫しながら行う。

□施策6 国際社会において生き抜く力の育成

- ・児童は、タブレットなどの ICT 機器を活用することで、色々な視点で考え興味を持って学習に取り組んだ。また、様々な学年でプログラミング学習にも取り組むことができた。「ICTを活用した学習はわかりやすい」の項目において目標を大きく上回った。
- ・低学年からネイティブの指導者から英語の授業を受けることによって、目標を上回り英語教育の指導法を共有できた。

□施策7 健康や体力を保持増進力の育成

- ・体育の学習などで児童の敏捷性を向上させる指導に取り組んできた。令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計得点の結果は、前年度を2ポイント以上上回ることができた。

(様式2)

大阪市立豊新小学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】 全市共通目標 ○令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○令和元年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上(H28:87% H29:93% H30:90%)にする。 ○令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に(学期に1度)実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。 指標 令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	B
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。 指標 令和元年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上(H28:87% H29:93% H30:90%)にする。 令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	B
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。 B 指標 令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①学期ごとの「いじめアンケート」により、児童の実態把握を定期的に行うことで、早期解決につながっている。年度末における全学年の調査でいじめ解消率は98%であった。 ②小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合は93%であった。また、校内調査における「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において肯定的に答える児童の割合は93%だった。全教職員で日常的に指導を続けてきた結果、きまりを守って生活する児童が増えている。 ③関連機関と連携し課題に対応してきた。担任を中心とした学年の努力により、不登校であった6年生児童が登校するようになった。
次年度への改善点
①継続して取り組みを行い、必要に応じて校内で、いじめ対策委員会をもつ。 ②継続して全教職員で指導を行う。大きな課題や事案があれば、全教職員で共通理解をし解決を目指す。 ③継続して連携を行い、支援していく。

年度目標	達成 状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校の年度目標 ○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。 ○令和元年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:83% H29:83% H30:85%）にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進 捗 状況
取組内容①【施策 2 道徳心・社会性の育成】 芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。		C
指標 年間行事計画に基づき、音楽鑑賞行事、3～6年生で社会見学を実施する。 令和元年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:83% H29:83% H30:85%）にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①芸術鑑賞行事や多様な体験活動を計画にしたがって実施し、成果はあった。しかし、校内調査における「自分には良いところがある」の項目において肯定的に答える児童の割合は 83%と、目標を達成しなかった。		
次年度への改善点		
・日々の学習活動の中で、ほめることを増やす。 ・道徳や特別活動の時間に、自己肯定感を高められるような取り組みを行う。		

年度目標	達成 状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校の年度目標 ○令和元年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上（H28:84% H29:86% H30:83%）にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。	B
指標 令和元年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:84% H29:86% H30:83%）にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①児童の希望を取り入れて学級文庫、図書室の本を充実させた。また、読書週間を 2 週間にしたり、児童が興味を持てるイベントの工夫をしたりして、本に親しめる機会を増やした。さらに、ボランティアの方々のご協力のもと、図書委員会の活動で図書室を開放する時間を増やしたので、図書室を身近に感じる児童が増えた。 令和元年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 88%で、目標（85%）を上回った。	
次年度への改善点	
①次年度も学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図り、児童がより読書に親しめる機会を増やすとともに、全学年での朝の 10 分間読書の取り組みを定着させるなど、今年度の取り組みを継続していく。	

年度目標	達成 状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標 ○令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ○令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ○令和元年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76% H29:75.9% H30:72.7%）させる。 学校の年度目標 ○令和元年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を90%以上（H28:89% H29:91% H30:94%）にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを行う。 指標 令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。	C
取組内容②【施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫する。 指標 令和元年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76% H29:75.9% H30:72.7%）させる。	B
取組内容③【施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。 指標 令和元年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を90%以上（H28:89% H29:91% H30:94%）にする。 全教員が一人1回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修会を8回以上行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援など児童一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みを行うことができた。令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較すると6年(95.9→94.1)、5年(98.9→97.4)、4年(98.6→99.8)で、4年生は前年度より向上した。また、正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で前年度と比較すると、6年(29.3→36.5)、5年(16.9→16.5)、4年(19.7→11.5)で、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させることはできなかった。一方、正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一集団で比較すると、6年(13.3→17.6)、5年(13.3→15.2)、4年(22.7→19.7)で、4年以外は1ポイント以上増加させることができた。 ②単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫することができた。小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合は73.3%で前年を上回った。 ③令和元年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は93%で目標(90%)を上回ることができた。
次年度への改善点
小学校学力経年調査結果から課題を見つけ、どのような学力を児童につけさせ、どのようにして能力を発揮させることができるか、今後も継続して取り組みを進める。そのために、 ①児童一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みとして、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを引き続き行う。 ②単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように引き続き工夫する。 ③研究授業および研修会を引き続き実施する。次年度の年間計画・方針・研究の柱を明確にして共通理解をもって研究を深める。

年度目標	達成 状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 学校の年度目標 ○令和元年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」(H29:95% H30:95%)、「外国語活動は楽しい」(H29:87% H30:94%)の項目において、肯定的に答える児童の割合をもに85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進 捗 状況
取組内容①【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C Tの効果的な活用方法について指導方法（プログラミング学習等）の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。		B
指標 令和元年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上（H29:95% H30:95%）にする。		
取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。		B
指標 令和元年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上」（H29:87% H30:94%）にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①デジタル教材やタブレット等を活用して、学年に応じて実践を行った。視覚的に捉えることで学習支援につながったので、児童の学習意欲も上がり、わかりやすい授業になった。 令和元年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は96%で、目標（85%）を大きく上回った。I C Tの効果的な活用方法について指導方法の研究を行い、授業実践を蓄積させることができた。 ②令和元年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は92%で、目標（85%）を大きく上回った。教員研修を実施したり、C-NET の授業を参考にしたりするなどして、外国語活動・英語教育の指導法を共有してきた。		
次年度への改善点		
①今後もI C Tの効果的な活用について指導法の研鑽を深め、授業実践を蓄積させる。また、使用環境が完全ではないので、指導がスムーズにいかない場合がある。使用環境の整備を行う。 ②来年度の教科化に向けて、教員の共通理解を深めながら、3 年生以上で外国語活動・外国語の授業時間を確保できる教育課程を作成する。		

年度目標	達成 状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標 ○令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ2ポイント（回）、2ポイント（回）、2ポイント（cm）向上させる。 学校の年度目標 ○令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より2ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29:男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント H30:男子 52.34 ポイント 女子 53.13 ポイント）させる。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育の授業において、敏捷性や跳躍力のアップを目指す取組をする。 指標 令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ2ポイント（回）、2ポイント（回）、2ポイント（cm）向上させる。	C
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら体を動かすことのできる取組を年間を通して工夫する。 指標 令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より2ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29:男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント H30:男子 52.34 ポイント 女子 53.13 ポイント）させる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①各学年、体育の学習で児童の敏捷性・跳躍力を向上させるよう、指導に工夫をしながら取り組んできた。しかし、令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、反復横跳び・立ち幅跳びは目標数値を上回ったが、シャトルランは目標数値に達することができなかった。しかし、春と冬の計測結果を比較すると、児童の全体の体力向上は見ることができる。 ②全校でのかけ足週間やなわとび週間等、児童の体力向上に向け計画的に実施することができた。これらの行事だけではなく、体育学習を通して体を動かす楽しさを味わわせることができた。その結果、令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計得点の結果は、前年度を2ポイント以上上回ることができた。R1:男子 55.71 ポイント 女子 55.53 ポイント。	
次年度への改善点	
①令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、全体的に前年度の数値を上回り、目標数値に達することができた。今後児童の体力向上を目指し、体育の学習を通しながら敏捷性・跳躍力を伸ばせる指導法の研究・研修を深めることが必要である。しかし、対象児童が毎年違うので、指標を見直し全国の平均値から改めて目標数値を設定するべきである。 ②今後もスポーツテスト・なわとび週間・スポーツ週間・かけ足週間等の体育行事を継続していく。児童が運動やスポーツに興味・関心を持てるように体育科の授業を中心に指導していく。また、児童が運動場で安全に運動できる環境を整備していく。	